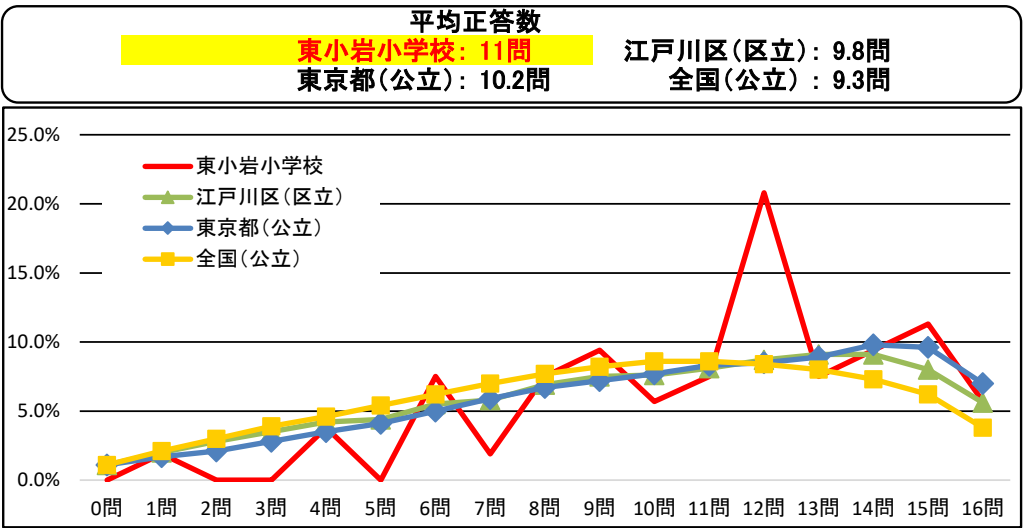


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】 東小岩小学校

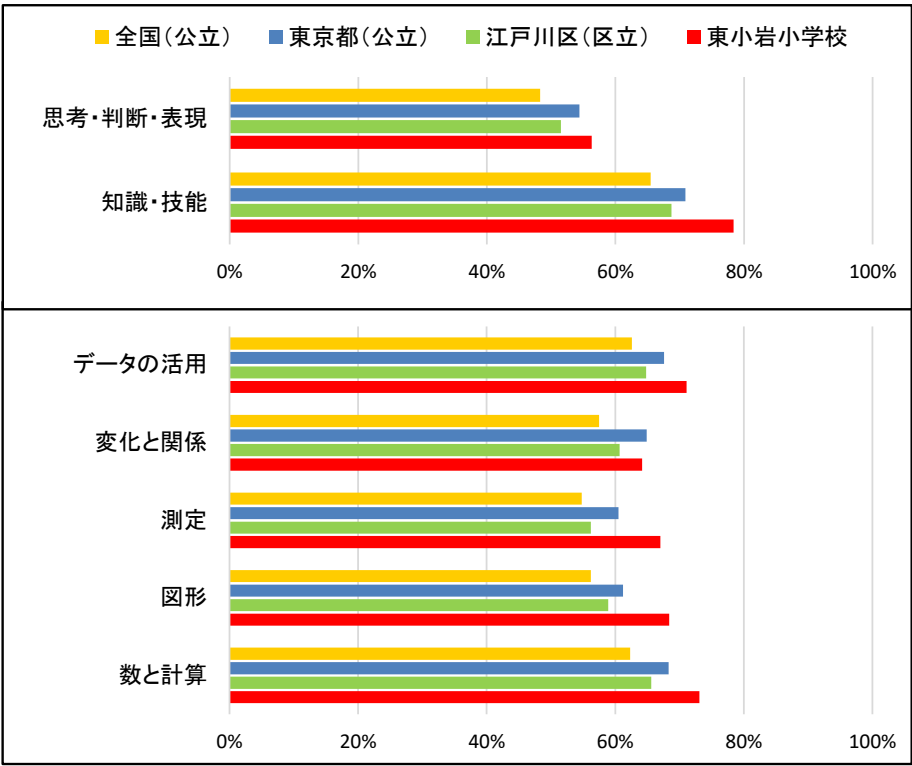
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

東小岩小学校	69%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	5.0

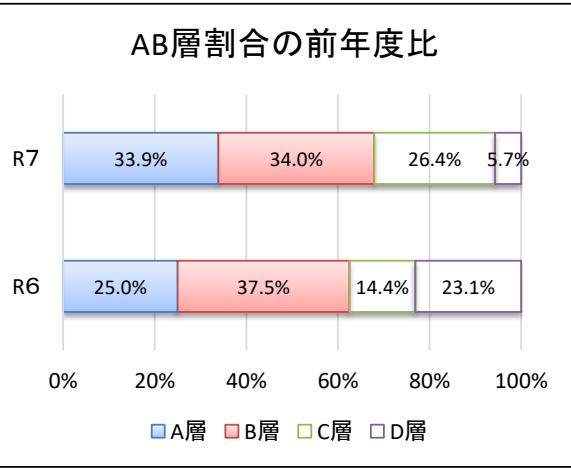
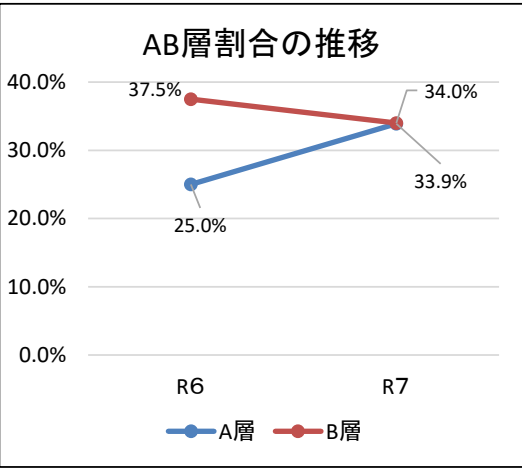
「領域別」の結果



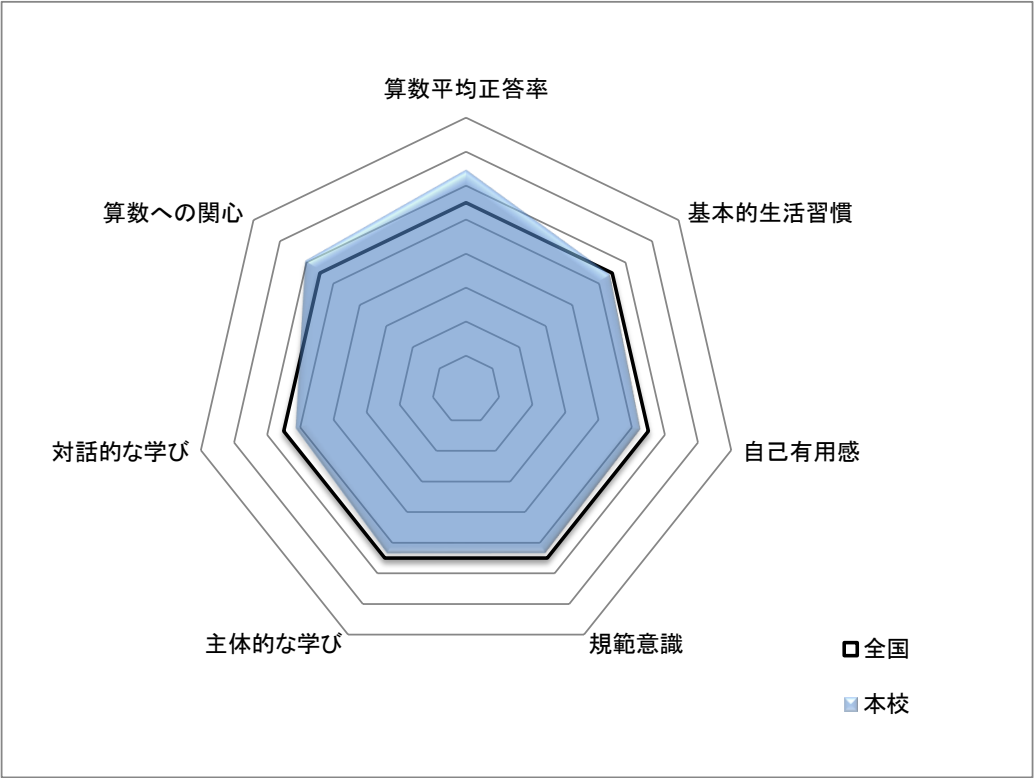
四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

算 数	上位 ← → 下位			
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問
東小岩小学校	33.9%	34.0%	26.4%	5.7%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

平均正答率は全国平均を11ポイント上回り、算数への関心が高いことも分かる。しかし、対話的な学びができていないかという設問では全国平均を下回っている。現在も授業の中でペアやグループで話し合う活動を取り入れているが、引き続き実施し、自分の考えをもち、話し合いを通して自分の考えを深めたり、新しい解き方を知ったりする良さを感じられるようにしていく。

《家庭・地域への働きかけ》

・家庭学習の取り組みを引き続き見守り、指導していただくよう、保護者会や学校だより、学級だよりなどを通して働きかける。
・区の学力調査も活用し、個々の課題を適切に伝えて家庭と共有していく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
・AB層は、全体の67.9%である。昨年度に比べてA層の割合が8.9%増えている。
・3～6年生までは、2学級3展開の習熟度別指導を行っている。AB層の児童が多い「ぐんぐんコース」では、教科書の内容に加えて発展課題を用意し、更なる習熟を図っている。
・領域別では「変化と関係」の項目のみ、都の平均を下回っている。問題場面を表や数直線図で表し、数値の変化や関係を的確に捉えて解決へ繋げる力を伸ばせるよう指導を重ねていく。

《学校の取組》

・教員の指導力向上
・江戸川区算数授業スタンダードを基に算数授業の基本的な学習の流れを全学級で統一して行っている。
・学年と算数専科とで連携し、学習計画や指導方法を検討し、実践している。
・教員同士で授業を見合い、指導力向上を目指している。

・基礎学力の保障

・「item」教材を活用して、計算練習や文章問題に取り組むようにしている。
・「ミライシード」を活用し、タブレット端末で計算練習に取り組むようにしている。
・4、5年生は、学習カルテを作成して自分の苦手な単元を把握し、練習問題に取り組むようにしている。

・学習習慣の確立

・「item」教材を計画的に家庭学習で取り組むように設定している。
・年3回の「江戸川っ子study week!」では、毎日「ミライシード」を活用した家庭学習の課題を出している。

・AB層の育成

・授業では自力解決や話し合いの時間を多くとり、自分の考え方を表現する力や伝える力、友達の考えと比較検討して一般化していく力を伸ばせるようにしている。発展問題にも取り組ませ、より広く深い内容を理解できるようにしている。